

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	情報化対策特別委員会
委員名	佐藤弘樹、木内知子、佐藤仁一郎、佐藤仁一、中鉢和三郎、遊佐辰雄、只野直悦、山田和明
日時	平成 28 年 1 月 14 日(木)～1 月 15 日(金)
視察先	1 埼玉県さいたま市議会(1 月 14 日 10:00～11:30) 2 東京都町田市議会(1 月 14 日 14:30～16:40) 3 東京都あきる野市議会(1 月 15 日 9:30～11:15)
出席者 (説明者)	1 さいたま市議会:伊藤局長、中根広報係長、石川主査、品川主事 2 町田市議会:上野議長、古谷次長、佐藤調査法制係長 3 あきる野市議会:中村広報広聴委員長、たばた副委員長、中嶋委員、小磯次長

2. 視察内容

視察項目	1 市議会だより(ロクマル)、議会ウェブサイトについて(さいたま市議会) 2 議会中継について(町田市議会) 3 市議会だより(ギカイの時間)について(あきる野市議会)
視察内容 【質疑応答】	1 市議会だより(ロクマル)、議会ウェブサイトについて (1)議会広報の考え方 平成 21 年 12 月、議会基本条例を制定、第 20 条「議会は、市民が議会における決定の過程及び結果に関する情報を入手することができるよう、広報誌の発行、インターネットの利用その他の方法により広報の充実に努めなければならない。」と規定した。 (2)広報事業の推進体制 議会広報編集委員会を設置、定例会につき 1～2 回開催し、主に広報誌の掲載内容、テレビ広報番組の放映内容について協議している。事務局体制は議会局総務部秘書課広報係 3 名を配置している。 (3)広報事業の概要 市議会だより(ロクマル)の発行、テレビ広報番組の放映、インターネットを使った議会中継の配信、ホームページで詳細な議会情報の提供を行っている。 広報事業の予算は平成 27 年度で 5,324 万 2 千円(広報誌 4,196 万 6 千円、テレビ 569 万 3 千円、議会中継 489 万円、その他 69 万 3 千円) (4)広報誌の発行 市議会だよりさいたま(愛称ロクマル) 仕様:A4 版、12 ページフルカラー、発行日:5・8・12・2 月の各 1 日(毎定例会終了後)

発行部数:564,800部

配布:市内全世帯(約560,000世帯)、公共施設(区役所、支所、図書館、公民館等)

配布方法:委託業者によるポスティング(市報と併配)

民間企業のノウハウや技術を効率的かつ最大限活用して、見やすく・分かりやすく・親しみやすい誌面づくりを行うため、「企画編集業務」を外部委託(一般競争入札)している。

(5)テレビ広報番組の放映

番組名:ようこそさいたま市議会へ

放映日:6・9・12・2月定例会終了後、2～3週間後に放映(年4回)、日曜日午前9時30分～15分間

(6)インターネットによる議会中継配信

配信対象:本会議、決算行政評価特別委員会、予算委員会

配信範囲:録画・ライブ(生中継)

視聴可能な機器:パソコン・スマートフォン・タブレット端末

(7)市議会ホームページ

平成25年12月にリニューアルし、会議日程や審議結果、議員紹介など、情報を分かりやすく、探しやすくした。平成27年のアクセス件数は年間160,000件(1日当たり約580件)

2 議会中継について

(1)本会議及び委員会中継の経緯

インターネットによる本会議中継は平成15年12月議会から開始している。委員会中継は、平成22年8月の議会運営委員会で決定し、本庁舎が完成した平成24年9月議会から、4常任委員会と特別委員会の中継を開始している。

(2)委員会中継方法と操作体制(設置時費用)

1委員会につき事務局2名体制(事務局18人いるため、4常任委員会同時開催が可能)で操作している。委員会室は、議場と異なり、マイクのボタンを押すと、カメラが切り替わるように事前にセットされ、委員会室のモニターにも映像が映し出されていた。費用については、カメラ、マイク等は新庁舎建設工事に含まれているため、詳細は分からないとのことであるが、ホームページに関しては、4常任委員会同時中継を可能にするための委託費用が約120万円発生した。

(3)市民による視聴状況の推移

ホームページのユーザー数は、平成24年度は33,828で、25年度は、44,975と増え、26年度は、37,415に減少したものの周辺市に比べると、約2倍～3倍となっている。

新庁舎の議場は市民が来やすいようにと3階につくり、議会が始まる10分前に傍聴や中継モニターの案内を行っている。

3 市議会だより(ギカイの時間)について

(1)視察の目的

今回の視察は、あきる野市市議会が議会広報誌を「ギカイの時間」としてリニューアルするに至った経緯と効果、様々な課題について調査し、本市の市議会だよりの編集技術の向上を期すためであります。

(2)視察内容

あきる野市市議会だよりは、平成 25 年 2 月 1 日発行のNO70 号の議会だよりから「ギカイの時間」に改められました。

専門のデザイン担当からアドバイスをいただきながら進められ、表紙の全面カラー写真や情報誌をイメージし、これまで 6 段 10 文字から 4 段 12 文字へと大幅リニューアルされました。

あきる野市議会では議会広報が市民にあまり読まれていないのではないかとの意見があり、全国の 30 市議会から議会広報紙を取り寄せ、超党派の議員、職員で調査研究グループを結成し、平成 23 年 10 月に来庁者 270 人に対して他議会の発行する議会広報誌と比較して、どの程度の市民があきる野市の議会広報を手にとってくれるのか市民アンケートを実施したところ、結果は 4%だったそうです。このことから内容検討会を全 10 回開催し、その上で編集委員会へ提案、最終的には代表者会議に提案されリニューアルの決定に至りました。

【手に取ってもらえる表紙づくり】

号ごとに子育てママやものづくり若手職人などを特集記事として取り上げ、表紙の写真と連動させながら統一性のある表紙づくりの工夫がされている。

また、号ごとに読み手である市民のターゲットを変え、時間をかけて全ターゲットを獲得している。子育てママ、若手農業者、大学生、消防団員、市に所縁のある著名人、健康づくり推進市民委員、市外からの移住者、外国人、五日市線利用者、スポーツ指導者などの特集が予定されている。

【余白の使い方・動線を意識した誌面づくり】

①文字を詰め込んでしまわないよう余白を取り、読みやすくするために意識的に文章をつくるよう心がけ、スッキリ感をだしている。

②読む際の目の動線を考えながら文章を配置している。

【デザイン】

①基本のデザインは専門家の方々が調査・研究をし、それを採用する。

②デザイン性にすぐれ、読みやすくなっている。

【裏表紙】

①裏表紙に小学生の「きかせて！あなたの未来」のコーナーがあり、将来のいろいろな夢を語るなどの素晴らしい取り組みをしていた。また、次回定例会の日程が一目瞭然で分かるように掲載されており、下段には次回議会だより発行の日時を入れ、是非ご覧下さ

	<p>いとありました。</p> <p>【写真キャプション】</p> <p>・写真キャプションは文章で内容を伝えているため、基本的にはつけていない。</p>
<p>考 察</p> <p>【所感・課題 ・提言等】</p>	<p>1 さいたま市議会の議会広報の考え方は、「企画編集業務」を民間業者に委託することで、民間のノウハウを有効に活用し、効率的で見やすく、分かりやすく、親しみやすい誌面になっている。また、広報は個々の表現をするものではないとの判断から、一般質問では個人名を入れていないとのことである。</p> <p>2 町田市議会は議員定数 36 人に対し、情報システム課出身の職員や法制能力などを有している職員を配置するなど、議会事務局職員が 18 人であった。</p> <p>ホームページを活用して、委員会の開催情報・議案内容の事前周知や、議決結果・議会中継の翌日配信などの取り組みが評価され、早稲田大学マニフェスト研究会が実施している「議会改革度調査」では、全国 10 位(都内1位)となっている。</p> <p>また、セキュリティ対策や議場傍聴席には小さな子どもがいても議会に来れるように親子傍聴席も設置されており、本市においても、新庁舎建設計画があることから、とても参考になった。</p> <p>3 あきる野市議会の視察を通して、市民に議会広報を手にとって読んでもらうにはどの様に心がけ、配慮しているのか、編集に取り組む姿勢などを学んだ。</p> <p>アンケートを実施した結果、これまでの議会だよりは市民のほとんど読まれていなかったことがわかり、編集委員会が議会だよりのリニューアルの必要性を強く感じ、手にとってもらうためにはどうすればよいかについて協議を何回も重ねながら、この様な「ギカイの時間」に大幅にイメージチェンジ出来たのは、議会の課題に取り組む意識・姿勢だと伺え知る。</p> <p>読み手にとって情報量としては少なく、ホームページ等への誘導を図っていたが、今後の課題とのことである。本市においても、議会情報の発信として、議会広報誌とウェブサイトの上手な使い分けが必要であると感じた。</p>

以 上